

製本のススメ

Vol. 168

毎年のことながら、梅雨は雨で悩まされます。紙商売としては湿気は大敵！紙も伸びやすく加工も大変です。そうはいつでも 雨が降らなくても困りますね。なるべく爽やかに過ごせる工夫をしたいものです。

今回は**用語**の話し

何処にでも業界用語がありますね。たまには難しい話を休んで、業界人らしく振舞えるように「用語」を理解しておきましょう。まずは初心者編です

「天と地」

天は上部・地は下部です。つまり上下のことですが「頭」・「罫下(ケツ)」も意味は同じです。主に印刷では「天・地」と使い 製本では「頭・罫下」と使います。語源は定かではありませんが、作業中の聞き間違いを防止することが目的と言われています。余談ですが製本の現場では前のことを「アタ頭」後ろを「ケツ尻」と呼んでいました（今でも使います）前ページから順番・後ろページから順番に丁合する場合など【これケツから貼り込んで～】や【頭から丁合して～】と使います。使う場面によって同じ言葉も意味が変わります。

「背と小口」

右開き・左開きがありますので**右側・左側と言う表現はあまりしません**。特に電話では、聞き違いや勘違いも起こりやすいので背側や小口側と表現します。

「束朧」

表紙を除いた冊子の厚みです。企画段階等でどんな冊子になるのかを確認するため白紙で作った本を「束見本朧(ミホ)」と言います。時折「タバミホン」という人がいますが、ちょっと恥ずかしいですから改めておきましょう。

「チリ」

中身よりも大きい表紙の部分をチリと呼びます。主には上製本ですが、まれに並製本でも表紙が本文サイズより若干大きいものがあります。チリ幅は上製本の大きさや厚みによっても微妙に変わりますが、おおむね3ミリです。天地・小口に3ミリほど大きい表紙を付けます（本文保護が目的です）



Tea break

そろそろ、畑にはトウモロコシが大きくなり始めました。さてこのトウモロコシのヒゲ(めしべ)には絹糸(ヌイ)という呼び名があります。その昔コロンブスがスペインにトウモロコシを持ち帰った訳は、観賞用にするためだったとか…韓国ではヒゲ茶として飲まれています。乾燥させて煎じて飲むとむくみ解消に効果があるそうです。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本

instagram は「Atelier703」